

主屋座敷は日本住宅建築様式の初期の例である数寄屋造りである。数寄屋造りは、茶道やその他の伝統芸術の場としての特徴を有する。江戸時代には、富裕層の家に取り入れられ、形式ばらない各種の複合的な書院形式を意味するようになった。主な業務は、帳場（文字どおり、帳の場）と土間（土地）の中で行われた。土間は、日本の伝統的な家の「屋内」と「屋外」中間に位置している。